



# 天文学者が集めた アジアの星物語の一考察

吉田二美 (産業医科大学)

@だて歴史の杜カルチャーセンター 2023.8.17

# はじめに

天文月報 2014年 第107巻第8号pp.437-444



- 2009年の世界天文年の時に、「アジアに伝わる豊かな星や宇宙にまつわる神話・伝説を掘り起こし、アジアにも世界にも広めよう」というプロジェクトが生まれました。

- 収集した物語は、子どもから大人までいろんな人に手に取っていただける本にしよう。挿絵はそれぞれの物語が生まれた地に住むイラストレーターに書いてもらおう。

- 「東アジア・太平洋地域の星と宇宙の神話・伝説—アジアの星物語」（万葉舎）誕生

(2014年)

## 「アジアの星物語」が本になりました！

吉田 二美／海部 宣男

〈国立天文台 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1〉

e-mail: fumi.yoshida@nao.ac.jp/norio.kaifu@nao.ac.jp



東アジア・太平洋地域の星と宇宙の神話・伝説を集めた『アジアの星物語』が、2014年2月、(株)万葉舎から出版されました。この本は、2009年の世界天文年に際し「アジアに伝わる豊かな星の神話・伝説を掘り起こし、アジアにも世界にも広めよう」という私たちの提案に賛同したアジアの天文関係者の共同プロジェクトで生まれました。アジアでの自国の星物語の出版は以前にもありましたが、アジア各国から星物語を集めて1冊の本にする試みは、世界でも初めてです。参同者は2009年5月にアジア各国から国立天文台三鷹に集結し、持ち寄った物語を報告し、出版の方針を決めました。その後も神話伝説を集め、地域で長く親しまれてきた物語などを選び編集し、日本語の翻訳完成まで、約4年を費やしました。美しい本に仕上げるデザインにも、さらに1年かけました。こうして出来上がったこの本には、アジアの13の国・地域からの68個の神話・伝説を収めています。本稿ではこの本が出来上がるまでの経緯を紹介します。詳しくはぜひ本を手にとってお楽しみください。このプロジェクトは来年の英語版の出版からアジア各国語での出版まで、まだ数年続きます。



# 物語を集めた国々

子ども向けの物語だけでなく、アジアに伝わる星物語に大きく影響を与えているインド、中国、太平洋諸島での宇宙観等の解説も。

国・地域	収録された物語の数
モンゴル	5
中国/香港/台湾	9
韓国	3
日本	8
ベトナム	4
インド	8
ネパール	3
バングラディッシュ	4
タイ	4
マレーシア	2
インドネシア	13
太平洋地域	5
計	68

## 【解説1】 古代インドの宇宙観と天文学

宇宙の起源

時間の起源と性質

太陽、月、惑星、および北極星

西暦500年頃のインドの天文学

## 【解説2】 古代中国の宇宙観と天文学

「宇宙」という言葉と概念

天と人との相関

実体的宇宙論と天文学

中国の星座に反映された宇宙観

## 【解説3】 太平洋諸島の宇宙観と天文学

宇宙の創造

太平洋諸島の航海術と天文学

太平洋諸島の宇宙と天文学

赤道諸島の天文学と暦

カロリン諸島のスター・コンパス

## 【解説4】 東アジア地域の宇宙観と神話・伝説の流れ

インド、中国、東南アジア、東北アジア、太平洋諸島  
地域

# アジアの星物語に登場する星々

西暦2014年4月19日 19時1分0秒 東経139度41分41秒 北緯35度41分9秒

## 天の川

p.41 (中国), p.151 (インドネシア),  
p.250 (タイ), p.255 (インド),  
p.73, 259 (日本), p.82 (ベトナム)

## ベガ

p.41 (中国),  
p.73, 268 (日本),  
p.82 (ベトナム)

## アルタイル

p.41 (中国),  
p.73, 268 (日本),  
p.82 (ベトナム),  
p.158 (太平洋)

## うお座

p.108 (インド)

## いるか座

p.73 (日本)

## 太陽

p.35, 166, 190 (中国),  
p.51 (韓国),  
p.92, 97, 171, 187 (インド),  
p.117 (ネパール),  
p.144, 183, 207, 262 (インドネシア),  
p.178, 192 (モンゴル),  
p.190 (台湾・タイヤル族),  
p.196 (マレーシア),  
p.210 (バングラデシュ),  
p.212 (日本)

## 金星

p.51 (韓国),  
p.20 (モンゴル),  
p.87 (ベトナム),  
p.259 (日本)

## 南斗六星

p.46 (韓国),  
p.70 (日本)

## さそり座

p.238 (太平洋),  
p.234, 271 (インドネシア)

## アンタレス

p.236 (中国)

## 北極星

p.24 (モンゴル), p.66 (日本),  
p.112 (ネパール)

## 北斗七星

p.24 (モンゴル), p.46, 51 (韓国), p.62 (日本), p.70 (日本),  
p.112 (ネパール), p.126 (タイ)

## 月

p.32, 38, 166, 190, 265 (中国),  
p.78, 202 (ベトナム),  
p.92, 108 (インド),  
p.117 (ネパール),  
p.140, 196 (マレーシア),  
p.144, 147, 183, 199, 207, 262, 266 (インドネシア),  
p.190 (台湾・タイヤル族),  
p.192 (モンゴル),  
p.205 (太平洋),  
p.210 (バングラデシュ),  
p.259 (日本)

## かんむり座

p.245 (インドネシア)

## 火星

p.51 (韓国),  
p.216 (ネパール)

## 土星

p.51 (韓国), p.97 (インド),  
p.219 (バングラデシュ)

## 南十字星

p.102 (インド),  
p.234, 241 (インドネシア),  
p.243 (太平洋)

## ケンタウルス座

p.234, 241 (インドネシア)

## フレアデス

p.20 (モンゴル), p.70, 228, 259 (日本),  
p.130 (タイ), p.158, 226 (太平洋),  
p.97, 231 (インド), p.271 (インドネシア)

## 木星

p.51 (韓国)

## おうし座

p.87 (ベトナム),  
p.97 (インド),  
p.122 (バングラデシュ),  
p.226 (太平洋)

## シリウス

p.28 (モンゴル),  
p.122 (バングラデシュ),  
p.226 (太平洋)

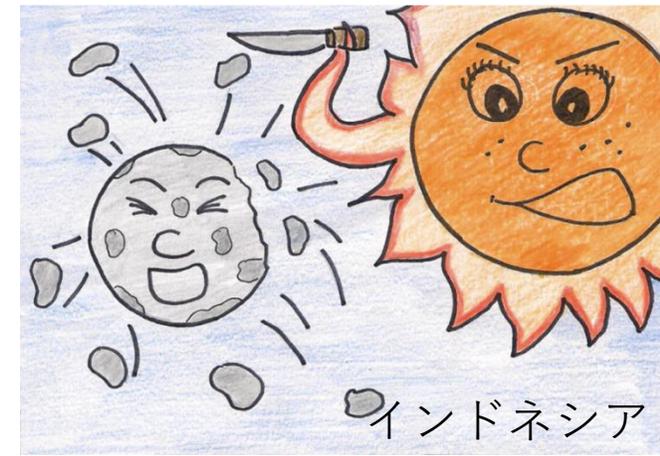
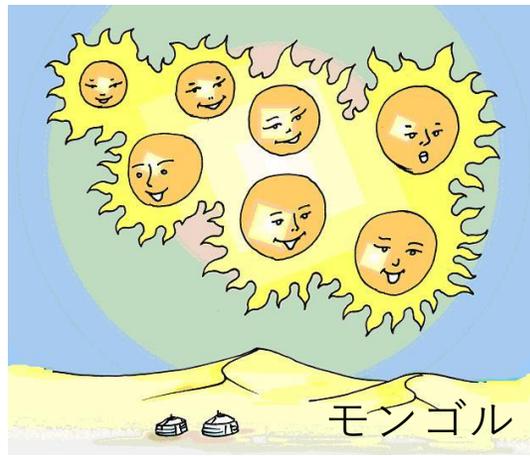
## オリオン座

p.28 (モンゴル),  
p.122 (バングラデシュ),  
p.135 (タイ),  
p.207, 234 (インドネシア),  
p.228 (日本),  
p.236 (中国)

## カノープス(老人星、長寿星)

p.58 (韓国), p.117 (ネパール)

# 太陽や月の物語



## • 昔は太陽がいくつもあった。

**モンゴル** 7つの沈むことのない太陽がいて、人も馬も熱と乾きに喘いでいた。。。

**中国** 昔は十個の太陽があり、順番に一つずつ空に昇っていたが、ある時十個が一斉に昇り、大地は考えられないほど暑くなり。。。

**台湾** 2つの太陽があり、一つが沈むともう一つが昇ってくるので、昼夜の区別なく暑かった。。。

**インドネシア** 太陽と太陽の小さい子供たちのせいで、午後はとてつもなく暑かった。。。

## • 月と太陽は仲が悪いらしい。

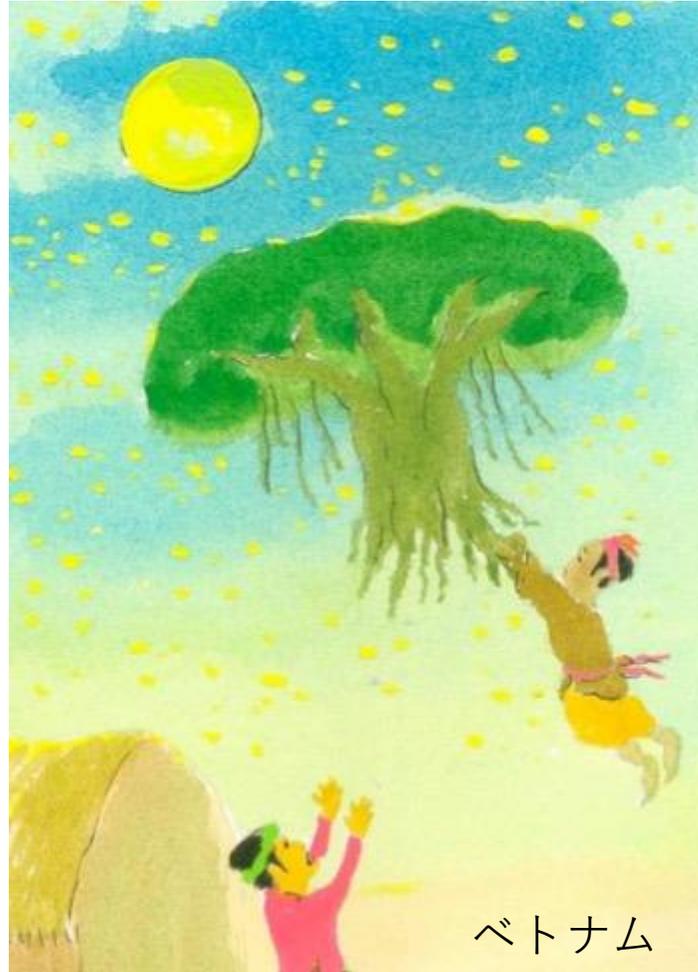
**インドネシア** 太陽と月は女性でどちらにもたくさんの子供がいました。月の子どもは夜空の星々で、太陽の子どもは小さな太陽で、小さな太陽のおかげで昼間はとても暑く、人々は外に出ることができません。人々に同情した月は太陽と戦うことにしました。。。

**マレーシア** 月は誰も彼の美しさと明るさにはかなわないと思っていたが、星たちから太陽の存在を教えられ、、、

# 月の住人

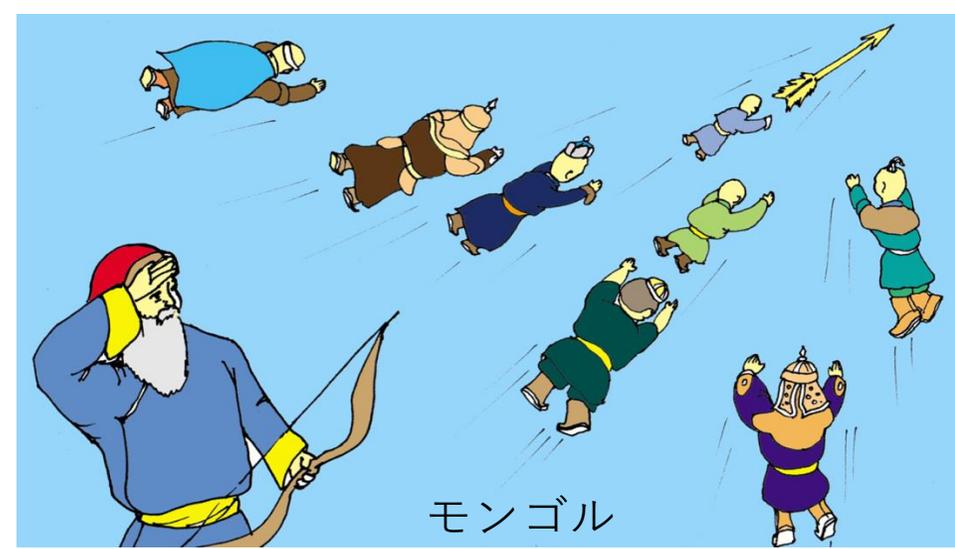
そして月にはいろいろな人が棲んでいるようです。太平洋地域は女性が住んでいると考えているようですが、ベトナムでは魔法の木と一緒に飛んでいった若者や、中国では嫦娥、呉剛。月に王国があると考える国もあるようです。

- **中国** 嫦娥、うさぎ、呉剛
- **ベトナム** クオイと言う若者、魔法の木とともに
- **マレーシア** 月には王国があり、王子様が住んでいる。
- **インドネシア** 王女
- **ポリネシア** ヒナと言う女神、カラバッシュの実とともに
- **マオリ** ローナと言う女性、ひょうたんの実を抱えて
- **ミクロネシア** 二人の女性



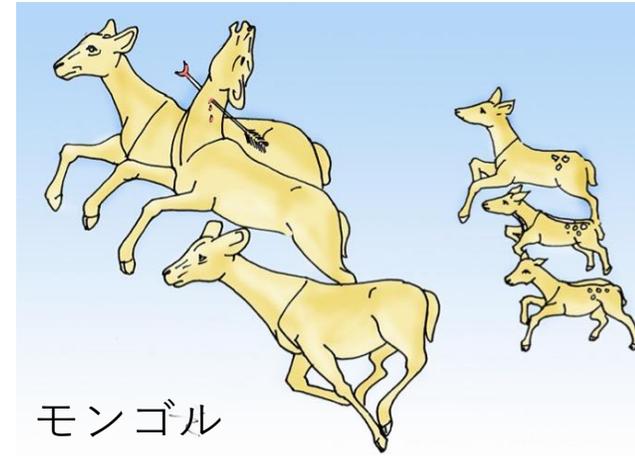
# 北斗七星

- **モンゴル** 北極星になった末っ子を守る七人の兄たち「北極星と北斗七星の物語」
- **韓国** 人の死を司るもの「北斗七星と南斗六星」
- **日本** 熊を追いかけて天に昇ったカムイ  
「サマエンの星ーアイヌ神話の北斗七星」  
天の王を怒らせてしまい、北へ追いやられた星。「むりかぶしゆんたー沖縄地方の伝説」
- **ネパール** 瞑想し北極星になった少年を助けた七賢人。少年を守るように周りに配置されている「北極星（ドルーヴァ）」
- **タイ** 自分の財産に執着して成仏できなかった男が生まれ変わったワニ  
「北斗七星 --- ダオ・ジョル・ラ・カエ」

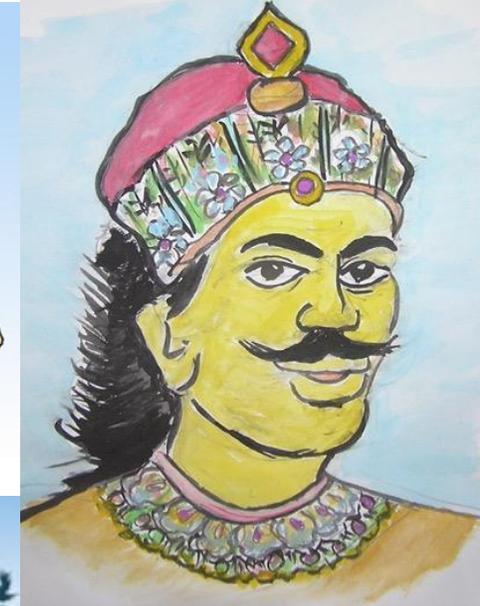


# オリオン座

- **モンゴル** オリオン座はフフデイ王が狩る雌鹿の群れ「三匹の雌鹿（オリオン座の物語）」
- **バングラディッシュ** 牡鹿に化けていたプラジャパティ神を三本の矢が貫き、プラジャパティ神の胴に開いた三つの穴がオリオンのベルトの星になった。「オリオン座の起源」
- **日本** 働き者の三人の息子（ベルトの三つ星）「イワンノチウ（六つ星）」
- **タイ** 生前恋人同士だった二人を隔てるために、二つの墓の間の地面に突き刺した三本の竹竿「オリオン座の三つ星 - ダオ・カン・サルム・タル」
- **インドネシア** 永遠に月をむさぼり続ける巨大な竜「巨竜ハラ・ナ・ゴダンの物語」  
リントン・ワルクと呼んで、農作業の目安にした「リントン・ワルク（鋤星）と農作業」



モンゴル



バングラデシュ  
インドネシア



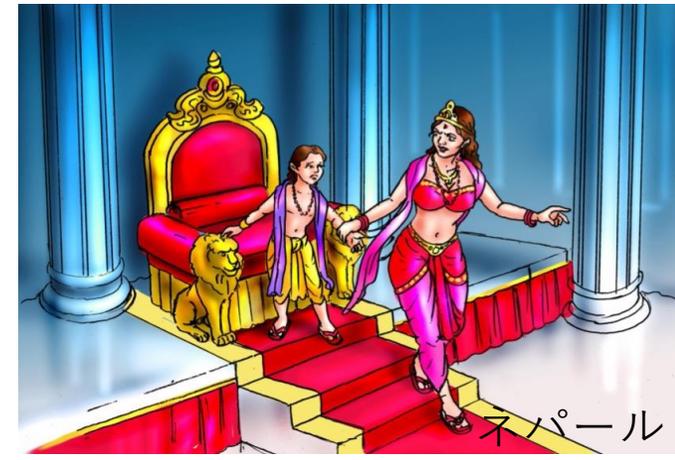
タイ



インドネシア



# 多国間で共通のお話



## • 七夕伝説

織姫と牛飼いのラブストーリー

中国文化の影響を強く受けた地域（韓国、日本、ベトナム）に伝わっている。基本的な筋書きは同じだが、かなり変容も見られる。これは古代中国の文化を起源とするという共通性と各地の民族性を反映した多様性をともに示すものと思われる。本には中国、日本、ベトナムに伝わるそれぞれの七夕伝説を掲載した。

## • 「ラーフ」

太陽や月を食べて日食月食を起こす首だけの悪魔  
ヒンドゥー文化圏のインド、バングラデシュ、インドネシアに共通だが、話は少しずつ違って面白。

## • 北極星

ドゥルーバという少年が継母に玉座を追われて悔しい思いをし、修行を重ねて宇宙の不動の中心である北極星になったお話。

バングラディッシュ、インド、ネパールなどのヒンドゥー文化圏で同じ話が伝わっている。登場人物の名前や筋書きも同じ。

# さまざまな物語の類似性と特異性

- 収録された物語の多くは中国起源、インド起源、太平洋諸島起源に分類される。

## 宗教とその文化圏

中国文化は儒教や北伝仏教を中心に周辺諸国に非常に大きな影響をもたらしました。

日本やベトナムの七夕伝説は中国起源の物語ですし、「北斗七星と南斗六星」という韓国で採録された物語も元は中国から伝わった語です。モンゴルの七つの太陽を弓で射る話は中国の弓の名人羿（げい）が九つの太陽を射落とす話と類似しており、起源は同じと思われます。

インドで生まれたヒンドゥー教と仏教は、まず仏教が北を通過して中国へ、南を通過して東南アジアへと伝わりました。この本に掲載されたタイの物語は仏教の「業」「輪廻転生」などの思想に基づいたものです。ヒンドゥー教がインドを席卷するようになると周辺諸国にはヒンドゥー文化が広がり、インド、ネパール、バングラデシュ、インドネシアの物語にヒンドゥー教の影響が色濃く見えます。

## 航海の民の宇宙観

太平洋諸島の民族は、太陽や月、星を頼りに航海し、実用的な道具としてこれらの天体を使用しました。太平洋地域のお話には惑星が登場しませんでした。惑星は徐々に位置を変えるので、航海の目当てには使えないからなのかもしれません。

# 日本の星物語

「サマエンの星」（北斗七星）、「徳蔵と北極星物語」、「七夕さまと瓜畑」、「むりかぶしゆんた」（すばる）、「天岩戸に隠れたアマテラス」（太陽）、「イワンノチュウ」（すばる）、「船人たちの星歌」（月、金星、すばる、天の川）、「七夕祭り」

- 日本は古代中国と古代朝鮮の文化の影響を大きく受けています。しかしそれだけではなく、北はオホーツク文化、南は太平洋文化の影響も受けています。したがって、日本の北東部にはオホーツク文化系、中部は中国系、南西部は中国と海洋系の文化の影響を受けた物語が見られます。

## • アイヌ（北）

アイヌ民族では、星に対する思いはかなり異なるように思っています。収録した「サマエンの星」や「イワンノチュウ」では、星は空にじっとしていて働かないので怠け者の象徴のようでもあります。

- **中部** 中国由来の七夕伝説「七夕さまと瓜畑」

## • 沖縄地方（南）

沖縄地方の物語「むりかぶしゆんた」では、星は農業にたいへん役に立つものとして尊敬され、農民たちは星の動きを見て種まきや収穫の時期を知り、たくさんの実りを得て幸せになったと語られています。



同じ日本の中でも星に対する捉え方が大きく違っていることが、これら限られた物語からも伝わってきて、面白いことです。

# カノープスの物語「修行僧の星」 (韓国)

## ・「修行僧の星」

昔々、セオ・チュンという修行僧が、浜辺の村に住んでいました。彼は嵐による海の事故を防ぐために、地下に長い横穴を掘り、寝食を絶って懸命に天に祈り、三十日目に死んでしまいました。すると大きな星が地平線近くの空に昇りました。村人たちは、この星が昇ると、嵐の前触れだと思えるようになり、安全に漁に出られるようになりました。

朝鮮半島の南端と房総半島ではカノープスは水平線近くに昇る。この話は朝鮮と日本を行き来していた人々が語り継いだのか？それとも、カノープスがちょうど水平線あたりに見える緯度の海辺に住んでいた人々は同じようなことを考え、カノープスで沖の天候を判断したのか？



韓国と日本の南房総市に類似の話



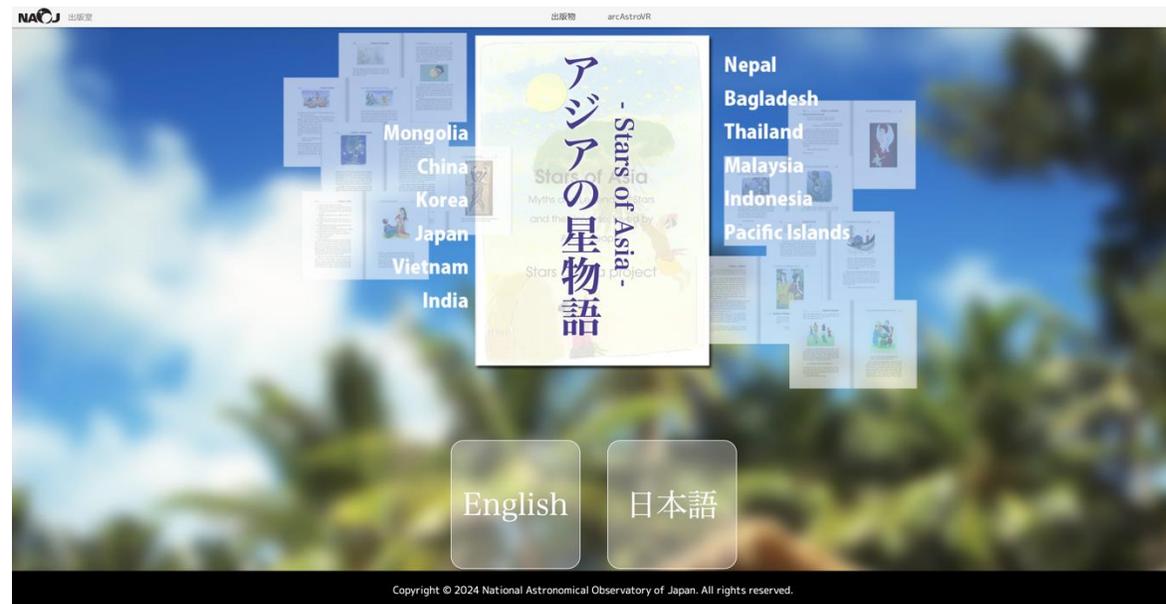
江戸時代、白浜（千葉県南房総市）に武田長治という子供がおり、十九歳で仏門に入って名を『西春』と改めました。西春は病に苦しむ白浜の人々を助けようと地下の石室にこもり、「私の叩く鉦の音が聞こえなくなったら、三年後に私を掘り出して、お堂に安置してくれ」と言い残しました。さらに彼は、「私の魂は化身して天に昇り、布良の沖に輝く星になるだろう。この星が輝くときは海が時化るので、決して漁に出てはいけない」とも言いました。漁師たちは、南の水平線近くに現れるこの星のことを『メラ星』と呼び、「メラ星がよう光る時は、明日は時化だっぺー。」と今でも漁に出るときを目安にするのです。

(NPO富浦エコミューゼ研究会発行の「南房総市の昔話 第一集」、房日新聞「房州の昔話」より)

# まとめ

アジアには世界に普及している古代ローマやギリシャ由来の星物語とは全く別の物語が存在します。物語に登場する人物や天体はその地域の文化や自然、緯度などの地理的条件を反映して、実に様々です。物語間の共通点や、相違点を見出すことで、民族の歴史がわかるかもしれないし、民族間を超えて天体や宇宙観に関する人類共通の認識が見出せるかもしれません。

- <https://culturalastronomy.net/starofasia/>



**Stars of Asia**

*You can download the book of "Stars of Asia" here.*  
<https://culturalastronomy.net/starofasia/>

In the past, people made calendars and told the time by observing the movements of the sun, moon, and stars. Regardless of such practical uses, however, people must have thought about the beauty of the universe, with the sun illuminating the world during the day and the moon and stars twinkling in the sky at night, and woven stories about it. The myths and legends about the stars, the universe, and the constellations of ancient Greece and Rome are well known throughout the world. However, the myths and legends about the stars, the universe, and the constellations that have been passed down locally around the world have not received as much attention and have not spread throughout the world. Under such circumstances, with the cooperation of astronomers from various Asian countries/regions, we have collected, edited, and compiled the myths and legends related to the stars and the universe from the Asian region into a single volume. Each story is illustrated by an artist living in the country/region where the story originated. The vast steppes of Mongolia, the mountains of the Himalayas, and the humid landscapes of Southeast Asia are colorfully depicted. The animals and nature in the stories and the costumes of the characters are also unique to the Asian region. The book can be read with an awareness of regional differences or with an awareness of similarities. It would be our greatest pleasure if this book could be enjoyed by many people in schools, planetariums and at home.

Fumi Yoshida  
On behalf of the Stars of Asia project  
Contact : fumi.yoshida.emei@gmail.com

This book is a revised edition of "Stars of Asia" (published by Manyosha in Japan, 2014), created by the late Dr. Nobuo Kifu and members of "Stars of Asia project" as a commemorative project for the International Year of Astronomy 2009.

**Stars of Asia**

Fumi Yoshida  
On behalf of the Stars of Asia project  
Contact : fumi.yoshida.emei@gmail.com

日本語版もここで読めるようになりませんが、今最終調整中なので、もう少しお待ちください。

アジアの星物語の英語版はIAUのGeneral Assembly（南アフリカで開催中）で宣伝中